

平成 31 年 2 月 15 日

大船渡市議会議長 熊 谷 昭 浩 様

自由民主・無所属の会 代表 志 田 嘉 功

下記のとおり視察を実施しましたので、報告書を提出します。

視察日時 平成 31 年 1 月 21 日から 23 日

視 察 先 鹿児島県肝付町

視察内容 別紙のとおり

「自由民主・無所属の会」視察報告書



大船渡市に 100 本贈られた「ロケット桜」の原木群

目 次

- ・視察日時
- ・視察場所の選定や目的について
- ・事前研修について
- ・視察研修
- ・事後研修について
- ・視察行程等

参加者

志 田 嘉 功	船 野 章
平 山 仁	船 砥 英 久
森 亨	金 子 正 勝

1、視察日時

平成 31 年 1 月 21 日(月)より 1 月 23 日(水)まで

2、視察目的及び視察先の選定について

視察先の鹿児島県肝付町は、東日本大震災からの復興に際し、応援職員の派遣や給水車による活動など、当市に多大なるご支援をいただいた自治体である。

また、昨年 11 月 8 日には、肝付町議会が当市を訪れ復興の進捗等の視察を行った他、当市議会と交流会を実施したことから視察先として選定したものである。

さらに、肝付町の地域おこし策や銀河連邦共和国の中心施設である JAXA を活用した観光推進策を研修することを目的とした。

3、視察事前研修

平成 31 年 1 月 16 日 第二委員会室

○事前研修での主な意見

- ① 人口や予算(当市では通常時の予算)規模が約半分であり対比しやすいのではないかな。
- ② 住宅支援の事業が特徴的であり、時間があれば聞いてみたい。
- ③ 内之浦宇宙空間観測所があることから、肝付町を訪れる人が増加しているのか知りたい。
- ④ 当市と同じように二次交通が課題と思う。対策を伺う必要がある。
- ⑤ えっがね祭りと当市のサンマグルメを比較すると面白いのではないかな。
- ⑥ やぶさめは 900 年の歴史と聞く。えっがね祭りは何を目的にいつから行っているのか。
- ⑦ 観光振興にどの程度寄与しているのか。
- ⑧ 一次産業が多く、市税が約 15 億。その中で特徴的な施策が多いのではないかな。
- ⑨ 地方交付税が当市と同程度の 45 億円である。標準財政規模はどの程度かな。

○下記ポイントで視察研修を行うこととした。

視察先である肝付町と当市を比較することによって充実した視察になるとともにポイントが絞られるのではないかと意見から、対比表を作成し視察当日に配布することとした。

また、特徴的な政策について背景や現状を調査することにした。

当市との比較は下記の通り

肝付町	項目	大船渡市
約 15,000 人	人口	約 36,000 人
約 105 億	予算規模	約 400 億(200 億)
内之浦宇宙空間観測所	銀河連邦	三陸大気球観測所(閉鎖)
14 名	議員数	20 名
大隅広域図書館ネットワーク	広域政策	
・住宅支援事業 ・住宅リフォーム事業 ・学校給食米(地場産米)供給 ・広報への一般広告掲載 ・映像作品撮影事業費補助金	特徴ある施策	・空き家バンク活用奨励金 ・子育て専用サイト ・ビジネスプランコンテスト
第一次産業	最多産業	第三次産業
・えっがね祭り (エビ定食メニュー)	水産振興	・サンマ祭り (サンマグルメメニュー開発)
南洲パーク、和牛	畜産振興	南部どり
・ウミガメの産卵地(岸良海岸) ・流鏑馬・観光農園	観光振興	・碁石海岸国定公園 ・世界の椿館
約 37 万人	観光客	約 70 万人
サバ類・アジ類	主力魚種	サンマ・牡蠣・サケ
台風	災害	地震・津波

上記表の他、132 の集落のうち 33 の集落が、いわゆる限界集落。高齢化率 90%を超える集落と高齢化率 100%の集落も 1 つずつ存在(2014 年 8 月 31 日時点)している。

また、特徴的な行政計画として、共創のまち・肝付プロジェクト・障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領・公的資金補償金免除繰上償還に係る健全化計画・肝付町建築物耐震改修促進計画・市町村建設計画(新しいまちづくり計画)・特定事業主行動計画・定員管理計画等が策定されている。

4、視察研修

(ア) 表敬訪問(肝付町議会)

- ① 日 時 1月22日(火)10時40分
- ② 場 所 肝付町役場
- ③ 対応者 肝付町議会恒吉智彦議長、木村實馬副議長、前田浩一事務局長同席
- ④ 主な内容
 - ・志田会派長より東日本大震災における支援や当市訪問への御礼を伝えた
 - ・肝付町議会議長より歓迎の言葉
 - ・大隅半島図書館サービスや肝付町の宿泊者数等について意見交換



当市へ視察に来て頂いた事や東日本大震災にかかる支援に対する御礼を述べる



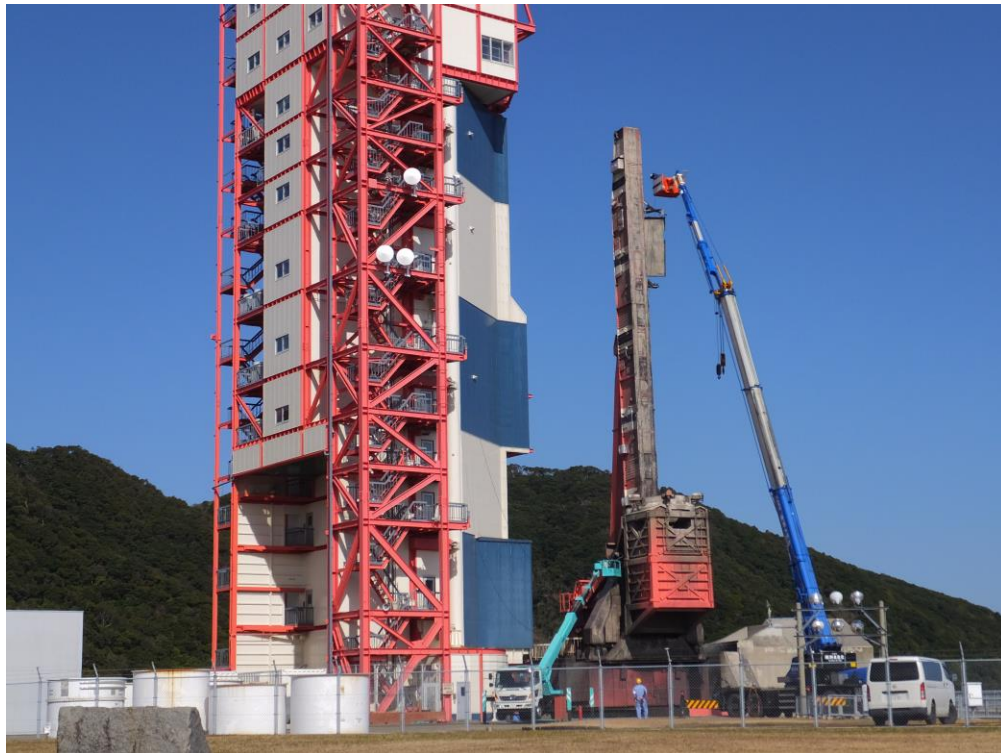
肝付町議会議長からの、歓迎の言葉と肝付町の現状が述べられる。



今後も親交を深めることを確認し撮影を行う

(イ) 内之浦宇宙空間観測所

- ① 日 時 1月22日(火)13時30分
- ② 目 的 ふるさと案内人を活用した観光振興策等について
- ③ 対応者 観光ガイド「肝付ふるさと案内人」



- ・視察直前の18日に打ち上げられたイプシロンロケット4号機の発射台
- ・このロケットが全国に希望を与え、肝付町の観光を支えています



肝付ふるさと案内人より直系 34m のパラボラアンテナや発射に伴う市内の交通規制について説明される(現在ではアンテナの直系が 10 m になるなど技術の進展が目覚ましい)

【肝付ふるさと案内人】について

- ・肝付町を訪れる観光客や、町民の方々に、地元の名所・旧跡・文化財などを案内する「肝付ふるさと案内人」が平成25年度4月に発足。
- 申込は観光協会まで行い、1 名 200 円で案内が可能。
- ・視察時は肝付町ふるさと案内人の他、観光協会からも説明に加わっていただき、内之浦宇宙観測所内を限られた時間ではありましたが案内を受けました。
- パンフレットにもないエピソードも期待出来ると伺っていましたが、その言葉通り発射を見学する秘密の場所があること、肝付町民は優先してロケット打ち上げ見学できる場所があること、発射台から 2.1 ㎞は立ち入り禁止となり、1 名でもいるとセンサーが働き発射出来ないこと等をわかりやすく話していただきました。
- ・去年は約 1600 名の案内に対応しているとの事でしたが、鹿児島市や鹿屋市に宿泊する人が多いことが課題点であると指摘されていました。
- ・当市においても「椿の里・大船渡ガイドの会」が活動され、市内の観光地や震災に関するについて案内を行っています。

(ウ) 当市へ贈られた「ロケット桜」について

- ①日 時 1月22日(火)14時40分
- ②視察項目 「ロケット桜」群
- ③対応者 肝付ふるさと案内人



案内いただいた河野さん

東日本大震災発生後、肝付町では当市に対し官民挙げての様々な支援を行いました。その一つが有志の皆さんで贈った「ロケット桜」です。

この名称は内之浦宇宙空間観測の敷地内にあることから呼ばれているそうです。

大船渡市から視察に来ることをふるさと案内人の河野さんが知って、わざわざコースに入れたのです。ありがたいことです。

その「ロケット桜」は、現在立根町に植えられています。(肝付町からは100本が贈られた)

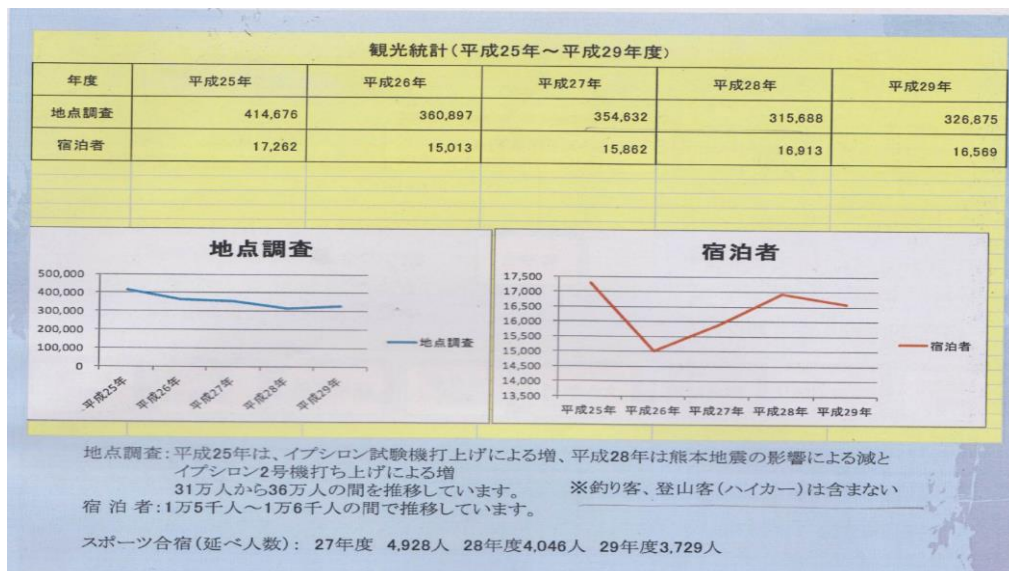
(エ) 肝付町における交流人口拡大策について

- ① 日 時 1月22日(火)14時40分
於: 肝付町内之浦総合支所
- ② 視察項目 観光振興等について



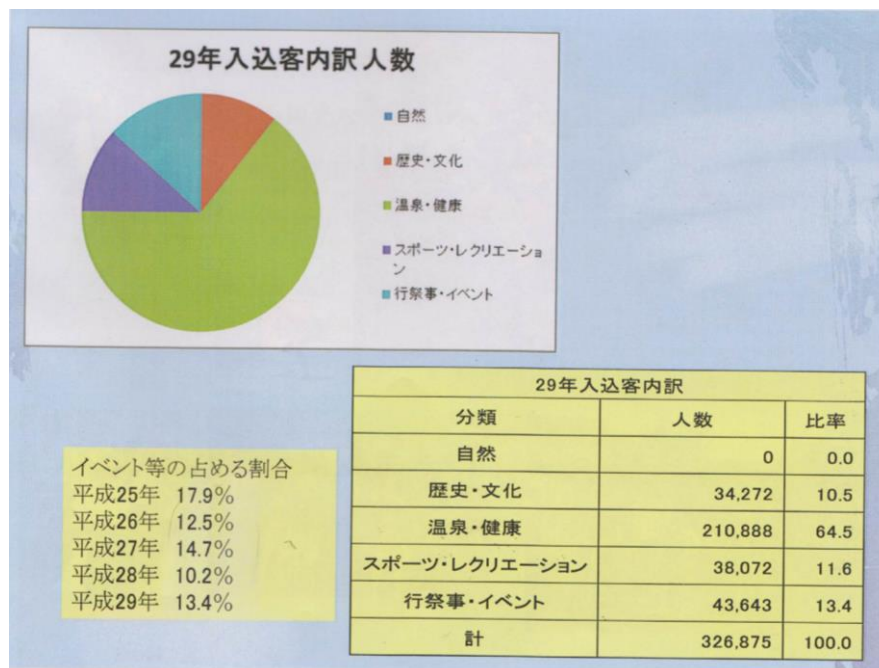
説明をいただいているこの方(産業創出課の渡曾実課長)は、大船渡市に応援職員として派遣されていた方です！ 加えて、大船渡市で肝付町産業創出課の辞令を受け取ったとも話されていました!! その経験から、大船渡市のことは詳しく知っていますし、冒頭のご挨拶の中で、大船渡市には肝付町よりも観光資源が多いとの話もありました。

私たちからすると、ロケットの発射や伊勢海老、流鏑馬などの観光資源が多く存在する肝付町の方が観光に適していると考えていたことから、意外な発言に驚き研修が大いに盛り上がりしました。



肝付町を訪れる観光客の特徴と概要をご説明いただきました。

年間約 31 万人から 36 万人で推移していますが、スポーツ合宿人数が以外に多いことに驚きました。関西からサンフラワー号で訪れるお客様が多く、今回は視察できませんでしたが、肝付町は総合運動公園も整備してあります。



この資料に示されているように、イベントを打たないと人が訪れないと認識し対策を行っているようです。そのために、900年の歴史がある流鏝馬祭りを21機関で構成し多様なイベントに仕上げていますと伺いました。

具体的には、2万人が訪れる祭りの事務職は役場の産業創出課が行い、流鏝馬部門、農業部門、林業部門、水産部門、観光部門、文化部門、スポーツ部門など専門部門を設け、多種多様なイベントになるよう工夫を行っているようです。

また、青少年育成の観点から、流鏝馬の騎手を中学校2年生が努めています。

(中学生を騎手とするため約40日の練習を要すると伺いました)。

更に、新たな取り組みも始めています。

新たな取り組み

「インバウンド対策」と「株式会社おおすすめ観光未来会議」の設立

これまで取り組んでこなかったインバウンドを推進する

【取り組み①】

外国人フォロワー364万人のサイト Japan Old と協定を交わし肝付町の情報を発信し始めた。これからの外国人観光者は「日本の原風景を見たいのではないか」とヒントをいただきました。

【取り組み②】

JNTO の外国人観光所認定31年度取得を目指す。

外国人宿泊利用者は平成27年度23人、平成28年度は1,462人(韓国の高校生)

平成29年度は69人と増加傾向にはあるものの安定していない様子。

DMO を目指した株式会社おおすみ観光未来会議の設立

【取組み①】

2018 年 7 月 27 日に大隅半島4市 5 町他民間会社にて設立。

スタッフは 8 名で運営し、観光客のニーズを把握し広域の観光地経営を行う。

観光客のニーズと大隅の資源を融合させた新しい商品づくりの支援を行い、観光という側面から地域事業者のビジネスをアシストする。その活動において顧客の視点をビジネスととらえ、観光地経営の専門家として、一過性でない持続性のある観光戦略を立案し、観光による地域活性化を目指していると説明がありました。

一方で、広域連携については自治体間の温度差があることから苦勞もあると言います。

📖 未来会議の発想 マーケティングとマネジメントに基づく事業展開

資源の観光的価値を分析→商品価値につなげる

資源の観光価値→貨幣価値につなげる



【取組み②】

肝付町の産業創出課は、例として 1 軒の農家のみでは産業の 6 次化まで行える体力はなく、生産からマーケティングまで行うのは難しいと仮定し、行政がマーケティング分析や営業活動を東京、名古屋、鹿児島市内まで行う。

そのために「こだわりの生産者リスト」を作成し、登録事業者として一定の選別を行った上で売り込みを行う流れとなっています。

また、少額ながらも 6 次化に対する補助金 10 万円を用意し、事業者としっかり向き合うことを大切にしていると話していました。

この補助金は年 3 件程度であるが、審査は係長が行い、柔軟な発想で採択していると伺いました。



辺塚だいたい

東京タワーサンマ祭りに肝付町から提供されている「辺塚だいたい」。
新しい取り組みとして、カンパチの餌に「辺塚だいたい」を混ぜ合わせて与えたところ、いわゆる生臭さが消えて血合いの色が非常に鮮やかになり、脂ノリも良くなったそうです。
今では、有名レストラン等で大人気になり生産量が追いつかないとの説明もありました。
正しく発想の転換であり、この「辺塚だいたい」についても営業を行ったそうです。

【取組み③】

肝付町は当市と同じように公共交通機関が発達していなく、自家用車による来訪が多い。
そこで、二次交通を充実させるためにレンタカー補助金を創設しています。
レンタカー借用中において、「1泊当たりの助成金(5,000 円/台)」×「レンタカー借用者が宿泊施設を利用した泊数」を助成金額としました。
現在は予算額に達成したため休止しているようですが、当市でも参考になる取り組みです。

肝付町観光協会の取組みについて



説明:肝付町観光協会 加治木智子 事務局長

・これまでの「肝付町内之浦観光協会」を2012年3月に解散し、体制の強化を図るために「肝付町観光協会」を同年4月に設立。

・はやぶさで話題になった肝付町だが、内之浦の飲食店が中心で問い合わせ窓口がない、町全体として観光開発窓口を設ける必要がある、イプシロンロケット打ち上げに対応する必要がある等の課題を解決することが立ち上げの理由のようです。

・以前は、1100万円の補助金で運営をしていましたが、現在では、400万円の補助金に市からの観光業務の委託費500万円の900万円で運営し、200万円の削減となっています。素晴らしいのは、経費の削減はおこなったものの法人化により従事者の賃金を上げた他、ふるさと納税の事務手数料を運営費に組み入れていることです。

その活動内容は、魅力ある情報発信、満足度アップとリピーターを増やすことを主眼に各種事業を行っています。



【取組み①】

イベント支援事業 「えっがね祭り」

・春と秋に開催するこの「えっがね祭り」は今年で春が12回、秋が16回を迎えています。

「えっがね」とはイセエビのことで、平成15年に旅館・飲食店を中心とする観光協会会員らによって、高級品のイメージが強い伊勢海老を気軽に味わえることで観光客流入のために開始されたようです。その背景には、日本発の人工衛星「おおすみ」を打ち上げた後に観光客は増えたものの、ロケットの打ち上げ回数が減ることによって商工業の低迷があったようです。

・課題点を伺ったところ、参加店舗の減少とクレーム対応との説明がありました。

対策として、統一価格を廃止し、店舗の自由価格にすることで参加しやすくすること(最初は統一価格としたが、資源の高騰から自由価格へ)、仕入れ状況によって食べられない等のクレームが発生したため、事務局で期間中毎日店舗へ聞き込みを行い情報発信の強化に努めるというものでした。

・その他のイベントとして、7月にはキス釣り大会、10月には高山やぶさめ祭り、今年の2月には観測所施設特別公開やイプシロンロケット打ち上げに対応したグッズ販売や弁当販売など多様な活動が企画しており、通年に近い観光が可能ようです。



肝付町の「えっがね祭り」Vs 当市の「サンマグルメフェア」

【取組み②】観光ガイド組織の充実・新規ガイド育成事業

今回の視察でお世話いただきました「肝付ふるさと案内人制度」。年間約 1,600 名の利用実績がありました。観光協会窓口にて年中無休で案内しています(8:30～17:00)。

※年末年始や選挙日や避難所開設日を除く

【取組み③】オリジナルグッズの製作・販売



肝付オリジナルグッズの現物を持って来ていただきました。

【取組み④】 ふるさと納税返礼品発送業務 納税額は約 3000 万円/年と伺いました。その約 10%が手数料として観光協会運営費に繰り入れます。



ふるさと納税に対する返礼品カタログのクオリティが素晴らしい。寄付の方法にも注目です。

5、事後研修

研修日 2 月 12 日の主な意見

- ① 肝付町は人口や予算規模が約半分であるが、観光客が36万人と努力している様子を垣間見ることが出来た。更に観光へ力をいれていくと話していたが、渡曾さんを始めとして職員が熱心に取り組んでいると思う。
- ② 内之浦宇宙空間観測所を始め、ふるさと案内人が活躍されていた。当市の椿・大船渡ガイドの会と対比して研究してみたい。
- ③ 当市と同じように二次交通が課題であったが、レンタカーに対する助成制度が素晴らしい。宿泊される方を中心に考えており当市でも検討すべきではないか。
- ④ えっかね祭りも資源の減少が課題であり参加事業者数の課題もあった。一方で、通年観光に近い形でのメニューも揃いつつあり、当市でも研究する必要がある。
- ⑤ やぶさめは、21団体の連携で様々なイベントがあり 2 万人が訪れるのも納得した。
- ⑥ 辺塚だいだいの取組みが素晴らしい。行政が登録を行いマーケティングまでしている。たいへん参考になった。当市でも見習うべきであり、一般質問で議論したい。
- ⑦ カンパチの餌にする発想が素晴らしく、その後の商品開発までの流れを今後も研究すべき。
- ⑧ 東京タワーサンマまつりにおいて、肝付町のだいだいが提供されていることを知っている市民は少ないのではないかと。PR を強化すべき。
- ⑨ 当市の観光物産協会も法人化になっているが、肝付町のふるさと納税からの事務手数料の仕組み等、検討する必要があるのではないかと。コスト削減をしながら働いている方の賃金を上げたのが素晴らしい。
- ⑩ ふるさと納税への返礼品商品のパンフレットを始め、各種印刷物のクオリティが高いと思う。
- ⑪ 広域で取り組んでいる事が多いと思う。この未来会議株式会社も大隅半島で取り組んでおり危機感の現れなのだと思う。自治体間の温度差への取組みをもう少し聞きたかった。
- ⑫ 視察の時間的余裕がなさすぎるのではないかと。もっと深掘するための日程を検討すべき。等の意見が出された。

6、視察の総括

視察を行うにあたって1月16日に事前研修を行い、視察先の選定や目的を確認した。

視察研修後の2月12日には事後研修を行い視察内容等について意見交換を行った。

今回の視察は、東日本大震災からの復興に対し支援をいただいた肝付町へ御礼を申し上げること、肝付町議会が復興の進捗を確認するために当市を訪れていただいたことへの御礼を申し上げることも重要な目的であった。

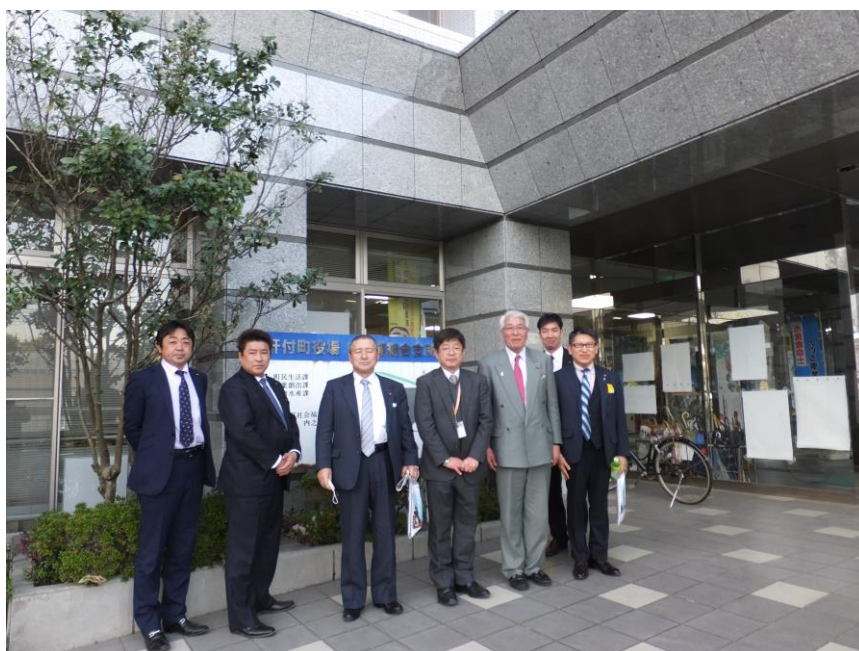
また、当市に応援職員として派遣されていた渡曾氏が視察の対応をしていただくなど、そのご配慮に感謝するものである。

視察内容については、肝付町の特徴的な施策について、ふるさと案内人の活用について、交流人口の拡大策についてが主なテーマであったが、中でも、大船渡東京タワーサンマまつりにも提供されている「辺塚だいたい」のマーケティングに伴う行政の関わり方、補助金のありかたがたいへん参考になった。

加えて、観光協会の経営に対する考え方や大隅半島で結成した未来会議株式会社についての活動は見習う点が多いと感じた。

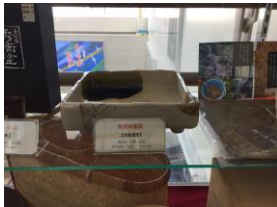
いずれ、人口減少を向かえた中でいかに交流人口を拡大し経済を活性化することは全国の自治体の大きな課題であり、復興事業終了を間近に控えた当市においては喫緊の問題である。したがって、当会派ではこれまでの当局にたいする要望活動に加えて、積極的に学習し提言を行っていくことを確認した。

最後に、担当していただいた肝付町議会の職員や日程調整を行った当市議会の事務局職員にも御礼を申し上げ視察報告書としたい。



7、視察行程表

日付	行 程
1 月 21 日	大船渡市役所 9:30 発 ～花巻空港 11:00 着 12:15 発 ～伊丹空港 13:50 着 15:10 発～ 鹿児島空港 16:25 着 ～ホテル 18:45 着
1 月 22 日	ホテル 8:30 発 ～肝付町議会 表敬訪問 10:40～内之浦宇宙空間観測所 視察 13:30～14:30～内之浦総合支所研修 14:40～17:00 視察～ ホテル着 17時45分～鹿屋市西ロータリークラブ(復興支援団体)と懇親会 18:00
1 月 23 日	ホテル 8:30 発 ～鹿児島空港 11:30 着 12:40 発～伊丹空港 13:50 着 14:05 着～花巻空 港 15:25 着～大船渡市役所 17:30 着



花巻空港内にある大船渡市ブー
ス。もう少し拡大したいです。



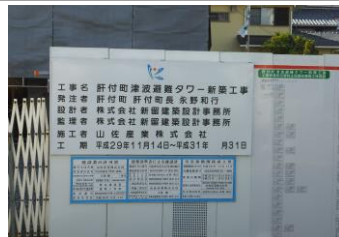
夕方鹿児島に到着。
シルエットは西郷どん。



視察の全工程を組んだ船砥議員から日程の
確認ミーティング



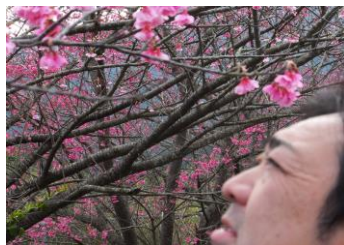
昼食時の打ち合わせ。



肝付町で津波避難タワーを建設して
いました。



同じく津波避難タワー。



ロケット桜に見入る金子議員



肝付町議会事務局の手配により昼
食を頂いた国民宿舎の正面にもロ
ケットがあります。



観光協会内にあるイプシロンロケット関連の
展示スペース。

■東日本大震災に係る肝付町からの支援等について

平成 23 年 3 月 14 日、肝付町において職員の派遣決定がなされ、同町職員 5 名が給水車とともに大船渡市へ向け出発。必要品は現地調達と考えていたが、震災の影響は新潟など広範囲に及んでおり、ガソリンはじめタイヤチェーンやカセットコンロなど在庫がなく調達に苦労したという。銀河連邦友好都市能代市などと連絡を取り合いながら、雪がまだ残る種山峠を越え、約 2,000 km 離れた当市に 2 日かけて到着した。その後、猪川地区公民館を宿所として精力的な支援活動が開始された。以下、肝付町による主な支援。

- 1 給水活動。当市水道事業所の指揮のもと、他の自治体と分担して各地区の給水にあたった。
- 2 下着類の物資支援。震災発災直後に、町民に対して一戸当たり 1,000 円の募金をお願いし、各年代・性別・サイズを取り揃えた大量の下着類が届けられた。

平成 23 年 3 月 25 日、肝付町議会において、議員発議による「東日本大震災に関する決議」を可決。「重大な決意の下」として、震災支援に係る 6 項目を決議した。（詳細は別添肝付町議会だより抜粋のとおり）

また、肝付町周辺にある大隅半島市町が、同町の震災支援に呼応し一致団結。大隅半島 4 市 5 町（鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町）が復興支援チームを結成し、同年 4 月 10 日、猪川地区公民館に、現地支援本部を設置した。肝付町から大隅半島 4 市 5 町に支援体制が拡がり、同年 8 月 31 日まで、のべ 256 名が支援活動にあたった。以下、肝付町を含む大隅半島 4 市 5 町復興支援チームによる主な支援。

- 3 芋焼酎の支援。平成 23 年 4 月初旬、被災者にお花見をして元気になってもらいたいと、地元特産の芋焼酎パックが、各避難所に届けられた。
- 4 市内業者にオリジナルTシャツを発注しその売上金から約 100 万円を寄付。
- 5 物資仕分け、避難所への物資搬出。全国からの物資支援が連日続く中、大隅半島 4 市 5 町復興支援チームは、立根小学校体育館の物資を管理し、受入れから、仕分け、避難所への搬出等、同体育館の開錠・施錠を含め全面的に担った。
- 6 避難所環境等の調査・調整活動。これを踏まえ、冷蔵庫が配備され、その後、地元から大量の豚肉や野菜が、定期的に各避難所等に届けられた。肝付町のミート工場などの協力を得て、高齢者施設や児童擁護施設なども含み計 12 回に及んだ。また、米、水、毛布などに加え、避難所の現状を把握しながら、扇風機、掃除機、冷凍庫、草刈機、車両、テント、水産用カップ、ソーラ式携帯電話充電器などが届けられた。
- 7 保健師による各戸巡回。医療関係の支援者と連携しながら、在宅の高齢者などの見

守り活動を行った。

- 8 被災車両の管理等。赤崎町大立の埋立地において、最大約 4,000 台に上った被災車両の公告に係る事務、被災車両の中の遺品を探す市民の案内等を行った。
- 9 上記、当市内における支援活動のほか、肝付町による、支援米稲刈り等交流事業への当市中学生招待、同町マラソン大会への当市民招待、また、鹿屋市の団体による、当市サッカーチームの児童招待などの支援があった。

平成 25 年度からは、大隅半島 4 市 5 町復興支援チームの鹿屋市から、土木技師職員の長期派遣があり、28 年度まで 3 年 10 カ月にわたり、漁港の復旧事業等に従事した。また、平成 27 年 4 月には、大隅半島 4 市 5 町復興支援チームの有志より、桜の苗木約 100 本が寄贈され市内立根町内に植樹された。